

まちづくり懇談会議事録

日 時：令和 3 年 11 月 5 日（金）14：00～15：11

場 所：円山地域文化センター

出席者：6 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配付資料確認および日程説明

3. 懇談

（１）第 7 次総合計画の策定について（別紙 1・2 参照）

（２）自由懇談

4. その他（情報提供）

（１）国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料の減免について（別紙 3 参照）

5. 閉会

《懇談内容》

【自由懇談】

町民：以前、病院の存続をどうするかという話があったときに、非常に厳しい状況であるご回答いただいたと記憶しています。病院を存続していただいたことにまず感謝するところであります。負のスパイラルと言いますか、人口が減少していく、若い人がいなくなる、病院が無くなるというのは大変な事です。まずは病院を改築するということで重ねて感謝申し上げます。それと、円山地区の基盤整備が入りました。これから工事を進めてこの地域も農業地帯としていい方向に向かっていくと思います。引き続きよろしくお願いします。今、新規就農において、栗山町は全国的に見ても見本になっているという話を聞きます。その中で今回新たな新規就農ということで、国の方から新規就農者に 1 千万円の援助があると聞いています。そのうちの半分が自治体負担ということで、農水省の方で政策をしていると新聞で見ましたが、各自治体でその半分の 500 万に対して何の打ち合わせもない中で、かなり反発があると聞いてます。その辺りをお聞かせ願います。もう 1 点ですが、光回線をいよいよ敷いてもらえるのか再確認です。この時代だとやはり光回線が無いと厳しいものがあるので、情報を改めてお聞きしたいです。

町長：病院の件につきましては、多くの町民の方々の協力もあって、ここまでたどり着くことができました。これまで整備手法については、町単独でやるのか、近隣で拠点的な病院ということで整備すべきではないか多くのご意見がありまして、なかなか進んでいなかったこともありましたが、病院は核となる施設ですから、それぞれの自治体が整備計画を持ってこれからも行っていく確認を取らせていただいた中で、栗山町は単独で、南空知の拠点病院という位置づけの中で整備をさせていただくことになりました。多額の経費が

かかるので、町の負担を抑える方法がないかということで、職員も色々研究をしたり、総務省等ともお話しをしながら、町の財源負担がないような形をとれたので、耐震性がありませんので、大きな地震が来る前に、1年でも早く実施したいと思います。また、基盤整備につきましては、多くの方々のご協力のもと、連合期成会を整備して進めることになりましたので、改めて感謝申し上げます。そして、土地改良総合センターですが、地元の協力が必要不可欠ということで、強く道からも言われています。今のところ町と農協と改良区から1名位ずつ出し合って協力していただける方を入れて、まだ場所は決まっていますが推進する組織を作りたいと思っています。新規就農に対する青年給付金の関係ですが、仰られたとおりの唐突でして、我々も全然準備もしていない中で、半分の自治体負担というような話が出てきて、こちらについてはもう少し内容を確認したうえで、国に対して要請していきます。栗山の過去7年間で16組60名位の新規就農者が栗山に引っ越して頂いて、後継者不足を補っていく流れができつつある中で、今回の国の政策で鈍化していても困りますので、ここはしっかり要望していきたいですし、もしこのとおりになってしまったとしても、町としても対策を取っていかなければならないと思っています。もう少し情報収集をしてまいります。

総務課参与：光回線についてですが、現在、栗山町の全戸にいきわたるように整備を進めています。整備スケジュールは、夏頃から工事に入っていて、工事が今年度中で終了予定となっております。工事終了後に総務省へ届け出をして、その後審査が入ります。審査終了後に町民の皆さんへ周知しますので、実際に使用できるのは来年の夏頃を予定しています。

町民：町の方で出会いの場を設けると言いますか、婚活の場を作るというのはいい案だと思います。なかなか若い方々の出会いの場ありませんし、今の若い方と我々の頃では出会い方も色々変わってるとは思いますが、そういったことを町にやってもらえたら人口増にもつながっていくと思いますので、お願いしたいと思います。

町長：出会いの場もそうですが、結婚されて出産されて、子育てをされていく中での支援策を充実させていきたいと思っています。今も18歳までの医療費無料化を行っていますし、前町長の頃から公約として全道に先駆けて色々行ってきました、全道的に子育て支援もいいところまで来て打ち止めになるところまで来ているので、そこに付随して町の総合力を上げて、ここに住みたいと思えるまちづくりをしなければなどと思っています。コロナの影響で出生率が非常に全国的に下がっているところでもあるので、国の政策なども踏まえたうえで、若者が移住しやすい環境というものを整えていきたいと思っています。

町民：駅前の交流地点について、広報を見て知ったんですが、DIYなど色々な事ができるということですが、対象年齢とかターゲットは何か定めているんでしょうか。それとも老若男女問わず楽しめるような形で考えているんでしょうか。

町長：ターゲットを若者に絞るということは考えてはおらず、老若男女問わず様々な方に足を運んでいただくような施設づくりを進めています。調理室とかDIY工房も作る予定ですので、そういったところを活用して料理教室やDIY体験などを女性や子どもたちに利用してもらうことも考えています。FM放送局も作る予定なので、ラジオを通じて皆様に色々な情報をお届けすることができます。特に災害時などもラジオは有効な連絡手段ですので、町の情報発信の役割も担う複合施設として色々準備を進めているところです。

15 : 11 閉会